

研究の視点 R1

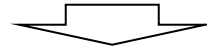
題材名 (箱幾つ分の重さかな? ~運べる荷物を見付けよう~)

研究の視点 何ができるようになるか

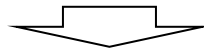
小学部における 育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
	各教科等の知識・技能 算数・国語	自分の思いや考えを表現する力	いろいろな活動に意欲的に取り組む力
		他者の思いや考えを聞く力	活動によりよく取り組もうとする力
		自分の役割を意識し、他者と協力して活動する力	集団の中で自分のできることを発揮する力

関連する 個別の指導計画 の目標	G 男	J 男	D 女
	・二つの具体物でどちらが重いか予想し、天びんを使って比べることができる。	・二つの具体物でどちらが重いか予想し、天びんを使って比べることができる。	・二つの物質の質量を比較し、「重い」「軽い」を判断することができる。

題材の目標 (各授業の中心的課題)	具体物の重さを予想し、天びんを使って比べることができる。
----------------------	------------------------------






「育成を目指す資 質能力の三つの 柱」の観点で分析	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性 主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある具体物の重さに注目し、重さの違いが分かる。 重さを比べる技能を身に付けることができる。 「重い」「軽い」「(重さが) 同じ」の言葉の意味が分かる。 具体物の重さが箱幾つ分か分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一方を基準として、他方の「重い」「軽い」「(重さが) 同じ」を判断することができる。 具体物を箱幾つ分か表現することができる。 大きさや材質にとらわれずに、持ち上げることで重さを感じ予想することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想を友達や指導者に伝え、天びんを使って確かめようとするることができる。 身の回りの物の重さに興味をもち、量って比べてみようとするすることができる。



題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 「重い」「軽い」「(重さが) 同じ」の言葉の意味が分かり、身の回りにある具体物の重さを天びんを使って量り、箱幾つ分か分かることができる。(知・技) 見たり、持ち上げたりすることで重さを予想し、箱幾つ分を使って結果を友達や指導者に伝えることができる。(思・判・表) 重さの違いに興味をもち、それぞれで予想したことを、みんなで確かめようとするすることができる。(主体的に学習に取り組む態度) 		
個別の評価規準 (個の目標)	G 男	J 男	D 女
		・「重い」「軽い」「(重さが) 同じ」に興味をもち量ろうとすることができる。	・箱幾つ分か予想したり、結果から分かったことを友達や指導者に伝えたりすることができる。

◎：一人でできる ○：手掛かりを参考にして △：指導者の促しで ×：できない

研究の視点 どのように学ぶか（主体的な学び・対話的な学び・深い学び）

学習活動	活動機会・支援環境・授業展開	
<p>3 やってみよう (3) 天びんで箱幾つ分か量る</p>  <p>〈釣り合うように一つずつ箱を入れていく児童〉</p>	<p>・五つの具体物それぞれが箱幾つ分かを確かめるために、大きな天びんを用意し、一方のかごに具体物を入れ、もう一方には数値化するための基準となる箱を入れていくようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「重い」「軽い」の表現は分かっていたが、「釣り合う」という状態については分かっている児童が多数いた。また、児童それぞれで重さの感覚が違うために、妥当性のある予想をすることが難しかった。箱という基準を用いて、重さを数値化することで、全員が基準を基に重さの比較ができるようにした。</p> </div>	  <p>〈天びんと基準となる箱〉</p>

研究の視点 何を学ぶか

学習指導要領での位置づけ	算数科 第2段階 C測定 二つの量の大きさ 第3段階 C測定 身の回りのものの量の単位と測定		
年間指導計画での位置づけ	ことば・かず Aグループ 【算数科】 比べてみよう 長短・重軽・高低・広狭量の比較		
学習指導計画（全11時間）	第1次 持ってみよう・運んでみよう ～重い・軽いて何？～・2時間 第2次 比べてみよう～二つの具体物～・・・・・・・・・1時間 第3次 箱幾つ分の重さかな？～運べる荷物を見付けよう～・・・・8時間（本時7/8）		
<p>関連する単元（題材）等</p> <p>細字：実際に行っている内容 太字：やってみてはどうかという内容</p>	<p style="text-align: center;">小</p> <p>〈算数〉 1段階：同じ物の比較（大小） 具体物と数字を比較（多少） 2段階：具体物の比較（長短） 3段階：量の数値化（任意単位）</p>	<p style="text-align: center;">中</p> <p>〈数学〉 上皿量り，普遍単位（kg）</p> <p>〈作業学習〉 電子量りでの量り取り</p> <p>〈職家〉 計量カップでかさ量を量る</p>	<p style="text-align: center;">高</p> <p>〈職業数学〉 調理スケールを使った量り取り</p> <p>〈作業学習〉 上皿天びんでの量り取り（ピスを同じ量）</p> <p>※日頃から大体の長さや大きさを考えて活動するように</p>
	<p>単元についての評価</p>	<p>指導内容</p> <p>生活で必要となる重さの感覚を養うために、適切な内容だった</p>	<p>指導形態</p> <p>集団学習で互いに学び合う場面も見られたが、個別学習の機会も設定して知識を身に付けることも必要</p>
<p>単元についての改善点</p>	<p>実施時期</p> <p>長短についての学習を十分に行ってから、本単元を行う方がよい</p>	<p>時数</p> <p>適切</p>	<p>・目的意識をもって学習できるように、導入を工夫したが、知識を身に付けるためには、考える要素が多くなりすぎ、思考の過程が複雑になった部分があった。もっとシンプルな授業の流れがよかった。</p> <p>・重さの感覚を養い、知識を身に付けるためには、単純に重さだけに注目して、直接重さを比べる活動や同じ重さを見つけるなどの活動のみでもよかった。</p> <p>・日常生活とも関連付けながら、重さを体感し、量感と言葉を結び付けられるような機会を設定していくことが必要。</p>